

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	重症心身障がい児(者)施設整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	3	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	障がい福祉課			
施策	114社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	山田			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価の掲げた内容	平成25年度からの実施事業のため、平成24年度については評価の対象外。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	施設整備終了。
②①に基づく取組み結果	平成25年度からの実施事業のため、平成24年度については評価の対象外。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	重症の身体、及び知的障がい児。	意図(対象をどうするのか)	施設入所。
②事務事業の概要	東葛飾地区で初めてとなる重症心身障がい児(者)施設を設置する事業者に対して整備費の一部を負担する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	従事職員の不足から40名の利用定員にて開所、職員の募集を増やして、早期に30名の待機者が入所できることを目指している。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	平成26年度に開設を予定している事業者に施設整備に係る負担金を交付することにより開設の促進を図った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	算定根拠
	i	鎌ヶ谷市申込数	0	0	8人	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算	
事業費(千円)	0	15,020	金額(千円)	内容	0	
国支出金(千円)			15,020	重症心身障がい児(者)施設整備事業負担金		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)		10,000				
一般財源(千円)		5,020			0	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	重症心身障がい児(者)で待機者となっているものの支援。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	施設整備は終了した。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	重症心身障がい児(者)施設整備事業。	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	施設整備終了。	15,020	15,020	当初	15,020	15,020	H24からの繰越	
				H24⇒25繰越	0		現年分	15,020
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
				平成26年度への繰越額(単位:千円)				0

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	障がい者福祉施設整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	4	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	障がい福祉課			
施策	114社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	山田			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	障がい福祉施設みちる園整備事業(増築)の実施。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	整備終了。
②①に基づく取り組み結果	整備終了。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	障がい福祉施設みちる園。	意図(対象をどうするのか)	施設の整備(増築)により、多くの利用者の生活能力の向上や日中の居場所を確保する。
②事務事業の概要	重度障がい者等の日中活動の場を確保するため、社会福祉法人が整備する障がい者福祉施設について、必要な補助を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	障がいのある人向けの通所施設の充実を望んでいる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	事業者が平成25年度内に支出した経費に対し、補助金を交付することにより開設の促進を図った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i 施設数			1	1	棟	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	0	7,575	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)							
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)		7,575	7,575	障がい者福祉施設整備費補助金	0		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	入札等の不調から25年度に繰り越させた事業であり、早期の整備が望まれ、平成25年9月に開園。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	整備終了の為。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	みちる園整備事業(増築)の実施。	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	整備終了。	7,575	7,575	当初	7,575	H24からの繰越	7,575
				H24⇒25繰越		7,575	
③達成状況	完了			補正		現年分	
④未完了・非着手の理由		平成26年度への繰越額(単位:千円)		0			

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	小規模作業所等の支援に要する経費(地域活動支援センターⅢ型運営費補助金)	会計	款	項	目	多額経費
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	一般	3	1	4	
施策	114社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室	障がい福祉課			
		担当課室長	山田			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	特別支援学校生の卒業後の受け入れ先としての需要増や、心身障がい者の日中活動場所の確保等、地域福祉の向上の必要性からも継続して地域活動支援センターの促進が必要。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	利用者に対するより一層の利便性の確保ができるよう指定管理者に指導していく。
②①に基づく取組み結果	心身障がい者の自立支援、働く意欲の醸成、在宅障がい者の解消、保護者・家族の負担軽減などが図られる。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	心身障がい者小規模作業所(地域活動支援センターⅢ型を含む。)	意図(対象をどうするのか)	地域に密着した小規模作業所(地域活動支援センターⅢ型を含む)の運営の安定化を図る。
②事務事業の概要	創作活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等の便宜を図っている団体に対し助成を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地域活動支援センターⅢ型から法定事業所である就労支援系施設への移行施設が増え始めた。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	地域活動支援センターⅢ型事業所の円滑な事業運営を図るため、地域活動支援センターⅢ型を運営する事業者に対し、補助金を交付することにより、利用者の活動の場を確保した(H26.3末現在、施設数4、利用者人数21人)。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	知的障がい者者数	514	533	574	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	15,388	13,625	金額(千円)		内容	22,980	
国支出金(千円)			13,625		地域活動支援センターⅢ型運営費補助金		
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	15,388	13,625					22,980

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	就労移行支援B型事業所への移行から事業所の減少傾向がみられる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	地域活動支援センターⅢ型を必要としている障がい者がいる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績		当初		H24からの繰越		
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正		現年分		
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		平成26年度への繰越額(単位:千円)				

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	友和園耐震診断・改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	3	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	障がい福祉課			
施策	114社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	山田			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	耐震改修工事の実施。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	耐震改修工事の早期完了を目指す。
②①に基づく取組み結果	入札不調により26年度へ繰越。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	鎌ヶ谷市福祉作業所友和園。	意図(対象をどうするのか)	耐震改修により、現行の耐震基準に適合させ
②事務事業の概要	経年による老朽化の進んでいる友和園について、耐震改修工事等を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	現在の耐震基準を満たしていないことなどから利用者から早期の改修工事を望まれていた為、工事後は一層の施設の充実が図れる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	入札不調により今年度に繰り越された。(平成26年4月4日から工事開始)				
②成果を表す指標	指標名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	算定根拠
	i 上部構造評点		0.5	1.26	耐震基準
	ii				
	iii				
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算
事業費(千円)	2,795	19,770	金額(千円)	内容	27,293
国支出金(千円)		1,864	19,770	友和園の耐震工	
県支出金(千円)					
市債その他(千円)		12,900			
一般財源(千円)	2,795	5,006			27,293

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	履行期間内に処理を行う。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	現在の耐震基準を満たしていないため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	友和園耐震診断・改修事業。	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	入札。	27,293	47,063	当初	19,770	0	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越	19,770		0	現年分
③達成状況	未完了			補正	7,523			
④未完了・非着手の理由	入札不調。			流用・充当				
				平成26年度への繰越額(単位:千円)		27,293		

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	こども発達センター耐震診断・改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	2	5	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	こども課			
施策	114社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	鈴木 恵子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	設計に基づいて適正に工事を行う。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	耐震工事、改修工事の実施
②①に基づく取組み結果	4回の入札において落札業者がなく、工事内容、予算見直し後、5回目の入札において落札業者が決まった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	施設。	意図(対象をどうするのか)	老朽化の解消のため柱及び天井、間仕切り壁工事等を行う。
②事務事業の概要	実施計画に基づき改修工事を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の耐震工事を行うことで、安全な建物となる。しかし、保護者からは通いやすい場所への施設の移転の声があがっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	平成25年度は、年度末に5回目の入札にて工事業者が決まったため、25年度内の工事終了には至らなかった。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	日中活動系サービス利用者数	3,422	4,000	4,024	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	3,746		金額(千円)	内容		14,700	
国支出金(千円)							
県支出金(千円)							
市債その他(千円)	1,500						
一般財源(千円)	2,246					14,700	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	資材、人件費の高騰により契約変更有。また資材の入手状況によっては工事期間が延長される場合もある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	こども発達センターの施設は、現在の耐震基準を満たしておらず、老朽化解消のためには必要な工事であるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	実施計画に基づき改修工事を行う。	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	なし。	14,700	39,451	当初	24,751	0	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越	24,751		0	現年分
③達成状況	未完了			補正	-10,051			
④未完了・非着手の理由	4回の入札で落札業者がなかったため。			流用・充当	0			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)		14,700		

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	こども発達センター増改築事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	2	5	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	こども課			
施策	114社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	鈴木 恵子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	こども発達センターとして一つの場所にセンターとして集約し、利用者が通所しやすい場所に移転する必要性を感じる。施設とスタッフが充実することで療育が充実する。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	増改築工事の実施
②①に基づく取り組み結果	センターとして一施設にはならないが、調理室改築をすることで子どもに合った給食形態を提供できるようになる。入札不調で工事がなかった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	施設。	意図(対象をどうするのか)	必要な設備等を整備し、園児の療育を整える。
②事務事業の概要	こども発達センターの老朽化した空調設備及び調理室等の改築など、必要な工事を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	空調設備工事、給食の提供、園庭の遮光ネットやスロープの設置など園児の療育環境の充実を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	施設の改築工事に必要な実施設計を実施した。				
②成果を表す指標	指標名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	算定根拠
	i 改築箇所数		1	1	業務取得
	ii				
	iii				
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算
事業費(千円)	1,335	1,410	金額(千円)	内容	48,000
国支出金(千円)			420	こども発達センター空調設備改修工事設計委託	
県支出金(千円)					
市債その他(千円)			990	こども発達センター改修工事設計委託	
一般財源(千円)	1,335	1,410			48,000

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	工事の遅れによる環境の整備の遅れ。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	空調設備や調理室の改築等を行うことにより、園児の療育環境の充実を図る必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	こども発達センター増改築事業。	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	平成26年2月入札。	48,000	51,329	当初	14,323	1,410	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越	0		現年分	1,410
③達成状況	未完了			補正	35,450			
④未完了・非着手の理由	入札不調のため実施できなかったため。			流用・充当	1,556			
		平成26年度への繰越額(単位:千円)		48,000				